



NHO Kyushu Cancer Center

九州がんセンター

2026年 春季号

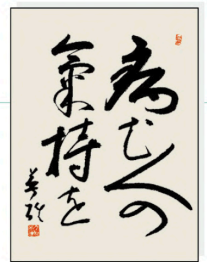
54

発行所 ● 福岡市南区野多目3丁目1-1 独立行政法人国立病院機構九州がんセンター | 編集発行 ● 広報・情報委員会 | 印刷 ● 株式会社 陽文社



基本理念

私たちは『病む人の気持ちを』そして『家族の気持ちを』尊重し
温かく、思いやりのある、最良のがん医療をめざします



(初代院長 入江英雄書)

患者さんの権利

私たちは、患者さんの人権を尊重いたします。
患者さんは病名、病状、治療法、ケアなどについて納得のいく説明をお求めにすることができます。
十分なご理解と同意をいただけるよう、私たちは最善の努力をいたします。

シンボルマーク

シンボルマークの意味

- 青 - 平和・信頼
- 緑 - 生命・安心
- ピンク - 幸福・愛情
- 3つの輪 - 臨床・研究・教育
- 2つの枝 - 医療者が患者によりそう



日本医療機能評価機構
認定病院 (3rdG: Ver.2.0)



Contents

巻頭言：「病む人のために」
～新たな気持ちで～……………2～3
バックカスティングをフォーカスティングする… 4
「選ばれる病院」であるための広報活動のご紹介… 5
抗体薬物複合体……………6
全ての人に笑顔を届けたい……………7
看護部の願い～誠実に丁寧な看護を積み重ね、
最善のケアを～……………8
より通いやすい九州がんセンターへ……………9
新任のご挨拶……………10～12
世界トップ病院に6年連続で選ばれました！… 13
外来担当医一覧表……………14

「病む人のために」 ～新たな気持ちで～

院長 森田 勝

皆さん、こんにちは。

現在、少子高齢化の進行に加え、政治・経済情勢が目まぐるしく変化する不確実な時代です。医療、とりわけ「がん診療」においては、その進歩は驚くほど速く、専門化・高度化の一途を辿っています。このような状況下でも、昨年度、当院が大過なく、質の高い診療とケアを継続できたのは、ひとえに関係の皆様方の温かいご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。本年は2016年の新病院移転からちょうど10年目という大きな節目にあたります。この節目の年に職員一同、新たな気持ちで「病む人のために」、いま、できることを考え行動していく所存です。

診療・ケアが行われていたそうです。これらの伝統と精神は50余年にわたり脈々と受け継がれています。

九州がんセンター憲章

- | | |
|---|--|
| 1、当センターは専門施設として、がんの診療、研究、研修の推進をはかり、つねに最先端を走まねばならない。 | 1、当センターはグループ診療によって総合的な診療を行う。外来を一次と二次に分から、また入院患者には系の異なる主治医1、準主治医2の主治医群をおき相互に緊密な連携を保つ。 |
| 1、当センターの職員は相互の信頼と理解のもとに使命達成に協力しなければならない。 | 1、当センターの臨床研究部はがんの臨床に関連した研究を主眼とする。職員は診療と研究を有機的に結合し、がん研究の発展、がん診療の向上に努力しなければならない。 |
| 1、当センターの職員はヒューマニズムに徹し、病む人への奉仕につとめなければならない。 | |
| 1、当センター職員の採用は公衆を旨とし学問、セクショナリズム、情実の弊弊は行われぬ。 | |

1975年2月21日

九州がんセンター憲章

本年度、古賀友紀医長が新たに小児・思春期腫瘍科の診療科長に就任いたしました。治療の難しい小児がんやAYA世代のがん診療に積極的に取り組み、力強いリーダーシップを発揮してくれるものと期待しています。さらに、病院の要となる部門においても、診療放射線部に大原健司技師長、臨床検査部に畠伸策技師長、栄養管理室に徳永真矢室長、リハビリテーション科に村上寿一理学療法士長を新たに迎えました。多くの部門で新しいリーダーのもと心機一転、仕事を始めることになりました。このような“新陳代謝”は、職員のモチベーションを高めるだけでなく、何より患者さんへの貢献につながると確信しています。

ハード面では、医療DX等を積極的に取り入れることで、職員の働き方改革を推進するとともに、業務を効率化することで患者さんの満足度向上を図っています。本年1月からは医療用生成AIを導入いたし



伝統の精神を継承し磨きこむ

当院は1972年に九州で唯一のがん専門診療施設として開設されました。初代入江院長は「病む人の気持ちを」、2代森脇院長は「家族の気持ちを」という言葉を理念として残されています。1975年に掲げられた“九州がんセンター憲章”では、最先端の医療、ヒューマニズム、チーム医療、臨床研究を活動の柱として掲げています。診療科を超えた連携や多職種サポート、さらに当時まだ一般的でなかった「がんの告知」にも取り組むなど、極めて先進的で画期的な

ました。試験運用を経て4月より本格稼働しており、カルテ記載、サマリー作成、音声入力といった事務作業の効率を格段に向上させています。一方、診療面では、ロボット支援下手術や分子標的薬・免疫療法、高精度放射線治療、ペプチド受容体放射線核種療法（PRRT）など、最先端の医療を常にアップデートし提供し続けることが、私どもの使命です。当院では、これらの**“高度な診療を日常診療として”**行える体制を整えています。

一方、不安や悩みを抱えているがん患者さんに寄り添いながらともに歩いていくことも、私共の病院の重要な使命と考えています。そのためには、初診から入院まで、退院後の自宅または施設等での生活、外来フォロー、場合によってはターミナルステージまで、**“切れ目ない診療・ケア”**を行うことを当院のモットーとしています。そのために、『入退院支援センター』、『訪問看護ステーション』、『緩和ケアチーム』をより

充実・強化させる一方、「病棟・外来連携看護師」、「退院後電話訪問」などの当院独自の試みをおこなっています。また、患者さん・ご家族のサポートを充実させるために、病院1階に『患者・家族支援センター』を設けています。ここでは、広範囲のご相談に対応可能な**“がん相談支援センター”**や、患者図書室、患者サロン、アピランスケアルームなどを備えています。

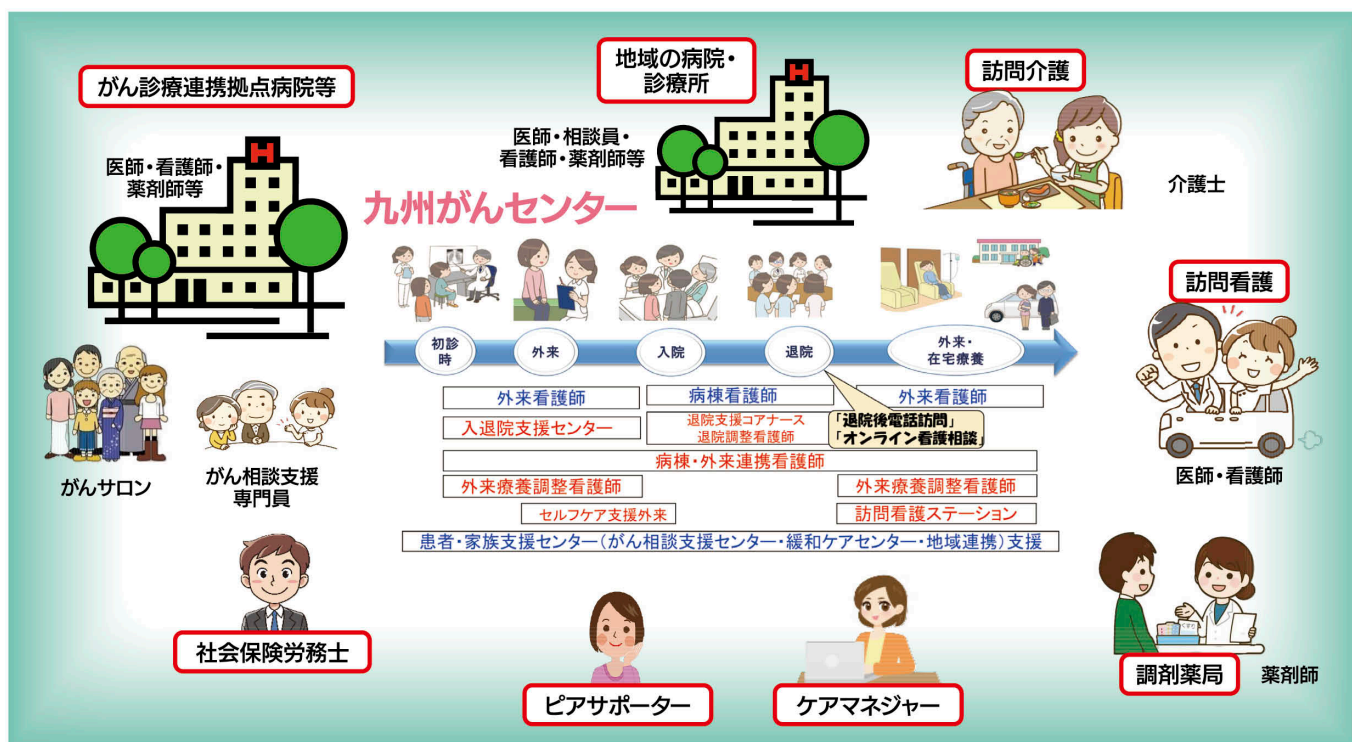
また、地域の方にがんに対する正しい理解と当院を身近な病院として知っていただくために毎年秋には「健康フェスタ」を開催し、約1000名の方にご参加いただいています。昨年は、**“がん患者さんを明るく照らし癒す”**ために、福岡最大級の高さ18mのクリスマスツリーを玄関前に設置しました。さらに、九州がんセンターの新たなイメージキャラクター（マスコット）を職員に募り、心温まる子が選ばれたので近々、公開予定です。患者さんや地域の皆様を“ほっこり”と癒してくれるものと思います。

このように、九州がんセンターでは患者さんに寄り添うために様々な活動を行っていますが、当院のみで患者さんを支えることは困難です。地域の医療従事者、行政、患者会など関係する皆様と密に連携を図りながらサポートしていくことが極めて重要です。**“地域で支える” “切れ目のない” がん診療・ケア**の実践を心がけています。そして、患者さんや地域の皆様から**“がん”ならやっぱり九州がんセンター**という声がいつも聞こえるとともに、職員自身も心からそう思える病院になれるよう努力していきます。

皆様、何卒、よろしくお願い申し上げます。



患者・家族支援センター



“地域で支える” “切れ目のない” がん診療・ケア

バックキャストを フォーキャストする



副院長 益田 宗幸

近年、医療を取り巻く環境が大きく変化するなかで、「バックキャスト (backcasting)」という考え方の重要性がしばしば語られるようになりました。バックキャストとは、まず将来のあるべき姿を描き、そこから現在にさかのぼって必要な取り組みを考える思考法です。つまり、理想とする未来を定め、その実現のために今何をすべきかを考えるという発想です。この対局にある考え方が「フォーキャスト (forecasting)」です。過去のデータや現状分析を積み重ねる事により将来を予測し、目標を達成するやり方です。人口減少や医療費の増大、医療人材の不足など、長期的な課題を抱える医療分野では、バックキャストのほうが合理的で魅力的な方法に思えます。

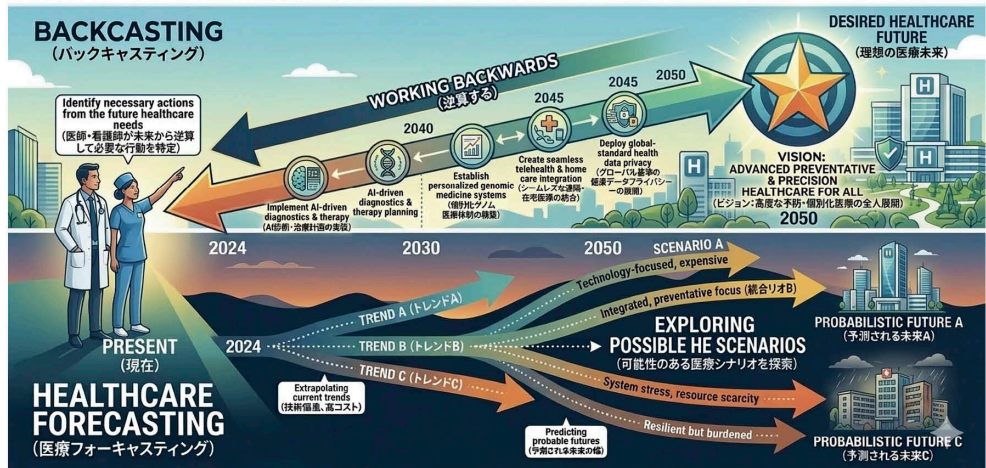
しかしながら、現実の世界を見渡すと、バックキャストの前提となる「理想とする未来やあるべき姿」を描くこと自体が、以前よりも極端に難しくなっているように思います。医療制度や技術の変化だけでなく、社会全体の先行きが見通しにくくなっているからです。現在の国際情勢を見ても、その不確実性は明らかです。まさかロシアがウクライナに侵攻するなどとはおもっていませんでしたが、その後イスラエルはガザをそこまでやるかと思うほど壊滅状態に追い込み、アメリカはベネズエラの大統領を連行しました。そしてこの原稿を書いている直前に、アメリカ・イスラエルがイランを爆撃して指導者を殺害しました。ユダヤキリスト教 VS イスラム教の宗教戦争です。現代版十字軍といったところでしょうか。中国も台湾侵攻の意欲をむき出しにしています。国連安全保障理事会常任理事国が国際法

を完全無視する時代です。何でもありの時代に入っているとやってよいのかもしれませんが。

このような状況では、バックキャストをしようにも、数十年先の社会や医療の姿を一つの理想像として描くことは簡単ではありません。結局、まず未来がどうなりそうかを予測する「フォーキャスト (forecasting)」が必要になるのです。つまり、バックキャストを行うための目標設定そのものを、まずフォーキャストしなければならないという、あべこべな状況になってしまっています。この矛盾した構造こそが、現代社会の特徴なのかもしれません。

この時代を生き抜くための処方箋として重要なのは、ただ一つの未来像を固定的に描くことではなく、いくつかの可能性を想定しながら柔軟に進むことではないでしょうか。未来をある程度見通す努力をしつつ、その中で望ましい方向を選び取り、そこから現在の行動を考える。フォーキャストとバックキャストを対立する考え方としてではなく、互いに補い合う思考として使うことが必要なのだと思います。禅の言葉に“白雲自在”という言葉があります。青空に浮かぶ雲のように、融通無碍に風に流される覚悟が必要なのだと思います。

HEALTHCARE PLANNING APPROACHES: BACKCASTING vs FORECASTING (医療計画手法:バックキャストとフォーキャストの比較)



Google Gemini で作成

「選ばれる病院」であるための 広報活動のご紹介



副院長 中村 元信



昨年はかつてなく医療機関の経営的な苦境がクローズアップされた年でした。昨今の病院経営は、標準的かつ良心的な医療を行っているからといって必ずしも健全な経営が保証されない異常事態です。本年6月の診療報酬改定の重点課題として、ようやく物価や賃金、人手不足などに対する対応が盛り込まれたことは喜ばしい限りですが、今後も楽観は許されません。安定した健全な病院経営のためには、今まで以上に患者・家族と地域の医療従事者に「選ばれる病院」である必要があります。この病院で診療を受けたいと思っていただく「選ばれる病院」であることはもちろんですが、この病院で働きたいと思う「選ばれる病院」であることも重要です。当院では「選ばれる病院」になる、「選ばれる病院」であるための広報活動に力を入れていますので、その一端をご紹介します。

当院はかねてより患者さんに切れ目なく寄り添う手厚い医療を提供する風土が根付いています。この理念を実現するための様々な取り組みや仕組みが当院にはありますが、今まで院外の方への情報発信が十分ではありませんでした。これらの患者さんを支える取り組みや仕組みのご紹介を、昨年4月に一新しましたホームページに掲載していますので、是非ご覧ください。このホームページの「来院される方へ」には、このたび新たに作成しました当院の紹介動画「九州がんセンターのご紹介・ご案内」も公開しています。また、最新の医療トピックスや上記の取り組みなどを紹介する「九州がんセンターだより」を発行し、病院の日常や様々な行事はインスタグラムに随時投稿・発信しています。是非フォローしていただければと思います。

これからも皆様にお伝えしたい

こと、皆様のお役に立つことを積極的に発信してまいりますので、何かお気づきの点やご要望などありましたらどうぞご意見をお寄せいただきますよう、よろしくお願いいたします。

九州がんセンターだより Vol.7 新しい放射線治療 -リガンド療法-

九州がんセンターだより Vol.7 2024/3/1発行

新しい放射線治療 -放射線リガンド療法-
膵臓がんに対する放射線リガンド療法「フルウィット」が当院で始まりました！

放射線リガンド療法とは？
特定のがん細胞のみに結合する物質（リガンド）と、放射線を発する放射性同位元素を結合させた薬剤を患者さんに投与することにより、薬剤が、がん細胞に結合して放射線を直接がん細胞に放出して治療を行う新しい放射線療法です。

当院では現在、神経内分泌腫瘍（NET）に対応したフルウィット®を用いた放射線リガンド療法を行っています。この応用新しい放射線リガンド療法であるフルウィット®が、転移を有する膵臓癌性（初期治療であるホルモン療法が効かなくなった）膵臓がんの一部に、保険診療で使えるようになりました。
膵臓がんの2024年2月にフルウィット治療を開始しました！

フルウィット治療について
フルウィットは、膵臓癌性膵臓がん細胞に特異的に「PSMA（前立腺特異性膜抗原）」に結合するリガンドである201抗体とフルウィット®を結合させた薬剤（フルウィット®）を投与することにより、PSMAが陽性（PSMA陽性）かどうかは、PSMA-PE検査（この検査は九州大学病院のみで行なわれています）を行って診断します。PSMA陽性の患者のみ、フルウィット治療を行うことができます。PSMA陽性であることが確認できたら、フルウィット®を投与することに最大限の配慮で投与し、PSMA陽性から放射線治療を受けることのできる患者を選別いたします。治療は特別な措置を施した病室に入院して行います。投与後3-7日は院内から放射線が発出されますので一定期間の隔離が必要となります。

フルウィット治療に関するお問い合わせ先
九州がんセンター がん相談支援センター TEL:092-541-8100（直通）

★フルウィット治療に関するお問い合わせ先
九州がんセンター がん相談支援センター TEL:092-541-8100（直通）

国立病院機構 九州がんセンター 〒811-1322 福岡県糟屋郡宇美町3-1-1
TEL:092-541-5531 FAX:092-541-5532

九州がんセンター HP: 患者さんを支える

独立行政法人 国立病院機構
九州がんセンター

HOME 来院される方へ がんの情報 診療科・部門 病院のご案内 医療関係の方へ

病む人、家族の気持ちに寄り添い
質の高いがん医療を提供します。

初診の方へ
再診の方へ
入院される方へ
医療関係の方へ
がんの情報
患者さんを支える

九州がんセンター Instagram

kyucc50th

九州がんセンター Instagram

2024年3月17日(土) 11:13

誰もが生きやすい明日へ

3.7.~15.

QRコード

<https://Kyushu-cc.hosp.jp>

Antibody-drug conjugate

抗体薬物複合体

臨床研究センター長 江崎 泰斗



がんの薬物療法の進歩には目覚ましいものがあります。

今回は抗体薬物複合体 (Antibody Drug Conjugate: ADC) についてご紹介します。

がん細胞を標的とする『抗体』に細胞障害性抗がん薬をくっつけた薬剤です。その作用機序から、魔法の弾丸 (magic bullet)、あるいはミサイル療法とも呼ばれます。「爆弾 (薬)」を「誘導装置 (抗体)」に乗せて、敵の陣地 (がん細胞) だけに送り届けるイメージです。

ADCは3つのパーツでできています。がん細胞の表面の抗原を認識して結合する**抗体 (Antibody)**、**抗がん薬 (Payload)**、抗体と薬物をつなぐ**リンカー**です。リンカーはがん細胞内やその周辺で薬物を切り離すよう工夫されています。抗がん薬が抗体によりがん細胞に直接運ばれるため、高い治療効果が得られかつ正常細胞への副作用を抑えることができます。

最初に臨床応用された薬剤は、HER2陽性乳癌に対するトラスツマブ・エムタンシン (カドサイラ®) です。その後より効果の高いトラスツマブ・デルクステカン (エンハーツ®) の適応が広がっています。HER2陽性の乳癌、胃癌に続き、肺癌、さらに2026年3月末には固形癌全体に適応が広がりました。いわゆる臓器横断的 (Tumor agnostic) な薬剤ということであり、臓器毎ではなく遺伝子異常

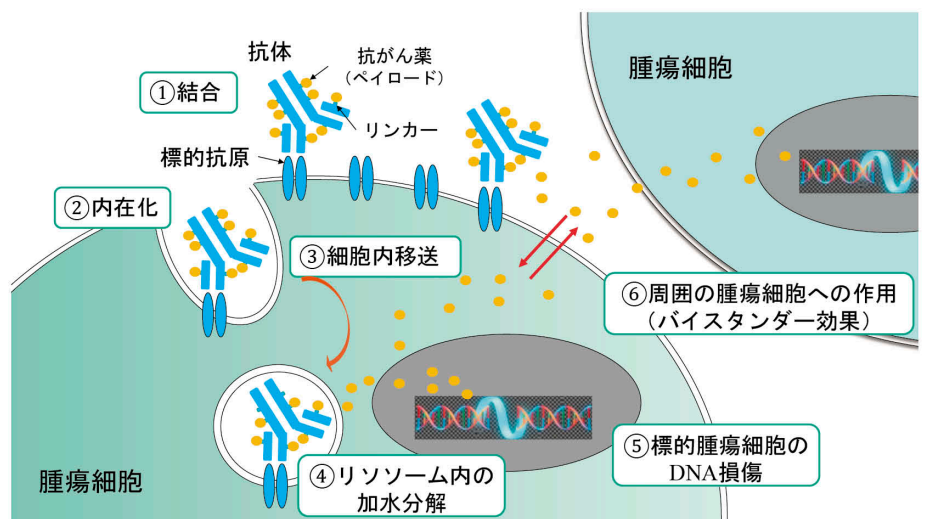
に応じた治療 = ゲノム医療の一環です。

その他、悪性リンパ腫に対するアドセトリス®、ポライビー®、尿路上皮癌に対するパドセブ®、乳癌に対するダトロウェイ®、トロデルビ® など、次々と承認されています。現在さらに多くの臨床研究 (治験) が行われており、2025年度に九州がんセンターで新たに始まった治験45課題のうち、11課題がADCによるものです。

またADCの大きな特徴として**バイスタンダー効果**とよばれるものがあります。抗がん薬が、取り込まれた標的細胞から周囲のがん細胞にも浸透して攻撃するものです。標的となる抗原の発現が低い

細胞にも効果がみられると考えられており (HER2低発現の乳癌など)、より高い効果が期待されます。一方、特徴的な副作用には注意が必要です。薬剤によって異なりますが、間質性肺炎、末梢神経障害、眼障害などがあり注意深い観察が不可欠です。空咳や息切れなど初期症状を見逃さないことが重要であり、地域の先生方との密な情報共有が欠かせません。

がん患者さんにとってより効果の高い抗腫瘍薬の登場は希望の光です。九州がんセンターでは新薬開発に積極的に取り組むとともに、いち早く有望な治療を適切に臨床導入することは大きな使命と考え、スタッフ一同、力を注いでいます。



全ての人に 笑顔届けたい

統括診療部長 杉本 理恵



新年度を迎え、がんセンター職員一同、
あらためて新たな気持ちで診療に取り組んでまいります。
今後ともよろしくお願い申し上げます。

さて、突然ですが皆様は古代ギリシャの病気の治療法をご存知でしょうか。数学や哲学、天文学が発達した古代ギリシャでは、病気の治療として、①神殿で心身を清め、②観劇（喜劇や悲劇）によって笑い、あるいは涙を流し、③入浴する、という方法が行われていました。感動することやリラックスすることが、病を癒すうえで重要であると理解されていたのです。

当院では、コロナ禍において患者さんや職員の気持ちが沈みがちな時期に、少しでも笑顔になれる機会を提供したいという思いから、「スマイルリングチーム」を立ち上げました。コロナ禍の間は、講堂の天井に星空を映し

出したプラネタリウムの開催や、楽器演奏ができる職員によるミニコンサート、透明な衝立を設置した寄席の開催など、制限のある中でも様々な工夫を重ねてまいりました。

また、ご縁があり、NHKの「病院ラジオ」にてサンドウィッチマンのお二人にご来院いただいたこともあります。多くの方にご覧いただいたのではないのでしょうか。

制限が緩和されてからは、「オトナの夏祭り」と題した院内イベントを毎年開催しています。ヨーヨー釣りや射的、輪投げなどを通じて、皆様に童心に帰って楽しんでいただいております。さらに、シャボン玉パフォーマーをお招きし、前庭で幻想的な空間を演出していただいたこともあり、大変ご好評をいただきました。コンサートも年々充実し、当院にゆかりのあるプロの方々が職員と共に演ずる機会も生まれています。私自身も新春寄席

にて一席務めさせていただきました。

このような取り組みにおいて重要なのは、患者さんの笑顔はもちろんのこと、職員自身が心から楽しみ、笑顔で関わることです。職員が楽しんでこそ、その雰囲気は患者さんにも伝わると考えています。職員向けに実施した「わたしのペット自慢」では多くの応募があり、医局や更衣室に掲示された月替わりの写真は、見る人の心を和ませてくれました。

九州がんセンターでは、さまざまな形で患者さんを支える取り組みを行っています。患者さんも職員も、皆が笑顔で過ごせる一年なることを願っております。



- す** スタッフは、患者さんが笑顔になるとうれしい！
- ま** 周りに笑顔があると、患者さんの笑顔につながる！
- い** 医療技術以外の手段で患者さんとスタッフに笑顔の循環を産み出そう！
- る** 笑顔のループで患者さんのQOL向上を目指そう！

看護部の願い

～誠実に丁寧な看護を積み重ね、最善のケアを～

看護部長 岸田 佐智子



新年度を迎えるにあたり気持ちを新たに、
皆様から選ばれる病院となるよう精進してまいります。

今年度も引き続き、「“がん”ならやっぱり九州がんセンター」
と思っただけのような病院に
したいと職員一丸となって取り
組んでいきたいと思ひます。

今年度、看護部では、『「がん看護」
ならやっぱり九州がんセンター
～対話と察する力そして専門知と
確かな技術で最善のケアを～』と
いうスローガンをかけていま
す。まずは、患者さんやご家族、
地域の方々、職員間の双方向での
対話を大切にしたいと思ひいま
す。また、がん治療は、高度化・
長期化しており、がん専門病院の
看護師としての知識と技術をさら
に磨き、患者さんにとって最善の
ケアを提供したいという強い願ひ
を込めています。具体的には、
①「切れ目のないケア」の充実、
②リフレクション（看護実践や
後輩への指導場面を振り返り、
経験から学びを深める）、③がん
看護教育カリキュラムを構築し、
病院内だけではなく、地域の看護
職員の方も一緒にがん看護につい
て学ぶことなどを実践していきま
す。

特に、「切れ目のないケア」は、
さらなる充実を図るよう努力しま
す。患者さんに寄り添い生活を
支える「切れ目のないケア」は、

初診→入院→退院→外来・在宅
療養の過程において、様々な看護
を提供いたします。入退院支援
センター、病棟・外来連携看護師、
外来療養調整看護師、退院調整
専従看護師、意思決定支援外来、
化学療法を受ける患者さんを対象
としたセルフケア支援外来、退院
後電話訪問、オンライン看護相談、
訪問看護ステーション、がん相談
支援センター等です。新たに開設
した放射線治療看護外来もありま
す。他にも「アピアランスケア
ルーム見学日」を設定し、治療に
伴う外見の悩みに対応できるケア
を目指しています。このような
ケアを実践する看護師は、入職時
から基礎的な看護実践に加え、
がん看護の基礎と専門的知識を学
んでいる看護師・スペシャリスト
（認定看護師・専門看護師）・高い
実践力をもつ特定行為研修修了
看護師など看護職員全員で取り組
んでいます。当院のスペシャリスト
は現在 24 名在籍し、令和 7 年度
は 2 名、令和 8 年度は 1 名の看護
師がスペシャリストを目指して
研修を受講しています。さらに
リンパ浮腫ケアの充実も目指した
いと思ひています。リンパ浮腫
ケアのセラピストになるための

専門的な知識と技術を学んだ看護
師が在籍しており、令和 8 年度も
新たに研修を希望する看護師がい
ます。このように、意識を高く持ち、
患者さんのために、地域のために、
病院のために、そして自分自身の
成長のために努力する看護部で
ありたいと思ひています。

看護部門での人事異動に伴い、
外来・手術室・病棟部門等の看護
管理者の一部が交代いたします。
また、地域の皆様と密接に関わり
ます「がん相談支援センター」と
「訪問看護ステーション」の看護
管理者も新しくなります。新しい
仲間が加わり新たな風が吹くこと
で、チームの刺激となり看護の質
向上につながると思ひます。

九州がんセンターは、患者さん
やご家族が、住み慣れた地域で
安心して生活できるよう、誠実に
そして丁寧な看護を積み重ねてま
います。本年度もよろしくお願ひ
いたします。

より通いやすい 九州がんセンターへ

NHO Kyushu Cancer Center

事務部長 鎌田 哲也



新年度を迎えるにあたり、地域の医療機関の皆さまには、当院の運営に対し日頃より格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

今年4月の人事異動では、新採用者および他施設からの転勤者を合わせて約85名を新たに迎えました。これは当院全職員の約1割に相当します。事務部門では、常勤職員19名のうち6名が新たに着任し、大幅な体制の刷新となりました。国立病院機構の事務職は、係長に昇任すると同時にいわゆる転勤族として2～3年ごとに異動が生じます（場合により同一施設内異動も）。私自身もこれまで14施設を経験してきました。多様な現場で得た知見は、現在の職務を果たすうえで大きな糧となっています。私にとって転勤は長期間の旅行のような感覚があり気にならないタイプですが、すべての職員が転勤を前向きに受け止められるわけではありません。引っ越し経験が少ない職員にとっては負担が大きく、転勤のない働き方を求めて退職する例も少なくありません。環境の変化は職員にとって不安要素ではありますが、知見を広げることにもなります。転勤により他施設で培った好事例を自院の改善に生かすという「組織の流動性」こそが、医療サービスの質を向上させる源泉であると思います。この状況を踏まえ、当機構では組織の年齢

構成バランスを維持するため、係長級への社会人経験者採用にも取り組んでいます。今後も多様なバックグラウンドを持つ職員の力を結集し、組織の活性化と安定した病院運営に邁進いたします。

一方、当院では、がん医療の専門化・高度化が進む中で、患者さん一人ひとりに寄り添う医療の提供と、地域がん医療を支える中核施設としての役割を担ってまいりました。そのなかで、患者さん・ご家族・地域医療機関から以前より多く寄せられていたのが、「公共交通機関でのアクセスの不便さ」に関する声です。

当院は福岡市の最南部に位置し、最寄り駅から距離があること、バス路線の本数が限られていることなど、特に通院を繰り返す患者さんにとって移動負担が小さくありませんでした。

この課題に対し、今年度大きな改善がありました。福岡市が進めるオンデマンド交通の社会実験「チョイソコ ふくおか」南区エリアにおいて、当院玄関前に新たな停留所が設置されたのです。予約制の乗り合い型交通サービスで、自宅付近や地域の停留所から乗り換えなく病院玄関まで移動でき、通院の負担軽減が大いに期待されます。患者

さんの体調や付添者の負担を考慮すれば、アクセス改善はもはや医療品質の一部といっても過言ではありません。

また、地域の医療機関から当院へ紹介される患者さんにとっても、移手段の確保が大きな安心材料となります。今回の取り組みが患者さんの通院環境の向上につながるるとともに、地域医療における移動支援の新たなモデルになることを期待しています。

九州がんセンターは、新年度も医療提供体制の質向上はもちろん、患者さんにご家族が安心して過ごせる環境づくりをより一層進めてまいります。病院敷地内の家族宿泊施設の整備やアクセス改善など、来院しやすい病院づくりを推進し、地域とともに歩む医療機関としての責務を果たしてまいります。

本年度も変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



新任のご挨拶



小児・思春期腫瘍科医長

古賀 友紀

原点から未来へ—こどもと家族に伴走する医療を

このたび、九州がんセンター小児・思春期腫瘍科の責任医師を務めることになりました古賀友紀です。

九州がんセンターは、日本で初めて小児の骨髄移植を実施した歴史を持つ施設です。その歩みの積み重ねの上に今の医療があり、その一端を担うことに、深い責任と誇りを感じています。

私にとってこの場所は、単なる勤務先ではなく、原点です。2000年、1年間この病院で研修の機会をいただき、当時、岡村純先生、河野嘉文先生から造血細胞移植を直接学びました。厳しさの中にある温かさ、そして一例一例に全力で向き合う姿勢は、今でも私の診療の軸となっています。あのとき見た景色の先に、今の自分がある—そう実感しながら日々診療にあたっています。

これまで私は、白血病や悪性リンパ腫、固形腫瘍、造血細胞移植を中心に小児がん診療に携わり、近年はがんゲノム医療や細胞療法など新たな治療にも取り組んできました。同時に、こどもと家族の生活に寄り添う医療を重視し、緩和医療や長期フォローアップにも力を注いでいます。治療だけでなく、その子の人生を支える医療でありたいと考えています。

少しだけ個人的な話をさせてください。小学生の頃は欽ちゃんの仮装大賞にお正月の生放送として出演し、舞台の上でどうすれば場が盛り上がるかを真剣に考えていました。一方、大学時代はボート部で国体に出場し、ただひたすら前に漕ぎ

続ける日々でした。方向性は違っても、全力で向き合うこと、仲間と進むこと、は、今の医療にもそのままつながっているように思います。

実際に九州がんセンターに再び身を置いてみて、以前にも増して感じているのは、チームとしての結束の強さです。小児科の中だけでなく、看護師、薬剤師、歯科医師、リハビリスタッフ、心理士、ソーシャルワーカー、栄養士、検査技師、臨床工学技士など、多職種が自然に連携し、一人のこどもを中心に同じ方向を向いている。その力は、この病院の大きな強みであり、ここでしか実現できない医療があると実感しています。

小児がんは決して頻度の高い疾患ではありませんが、こどもと家族の人生に深く関わる病気です。近年は治癒が期待できる時代となる一方で、晩期合併症や社会復帰、家族の負担といった新たな課題も明らかになってきました。だからこそ、治療成績だけでなく、その後の人生まで見据えた医療が求められています。

当科では、この強いチーム力を基盤に、治療の質と生活の質の両立を目指した診療を行っています。また、小児がん医療は専門施設だけで完結するものではなく、地域の先生方との連携によって支えられる医療です。日常診療の中で気になる症状やご心配なケースがありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

原点であるこの場所から、次の世代へとつながる医療を築いていきたいと考えています。これまで出会ったこどもたちとご家族から学んできたことを胸に、これからも一人ひとりに向き合いながら、チームとともに歩んでまいります。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



安全文化の確立と、患者さんに寄り添う検査・治療を目指して



診療放射線技師長

大原 健司

このたび、4月1日付で診療放射線技師長として着任いたしました大原健司と申します。約20年前、本院にて主任として5年間勤務させていただいたご縁があり、再びこの地で職務に携わる機会をいただきましたことに、深い感慨とともに責任の重さを身に引き締めております。新病院の完成により当時の面影は

大きく姿を変えましたが、一步足を踏み入れた瞬間に感じた変わらぬ空気感は、私に当時の初心を鮮やかに思い出させてくれました。これまでの経験を糧としつつも、まっさらな気持ちで新たな一步を踏み出す決意です。部門の運営にあたり、私が最も重視するのは「安全文化の確立」です。医療放射線は診断・治療に不可欠なものである一方、常にリスクを伴う側面も持っています。法令遵守はもとより、被ばく

低減の最適化、機器管理の徹底、インシデント防止体制の強化を図り、「安全を最優先とする組織文化」を根付かせてまいります。この「安全」の根底にあるのは、本院の理念である「病む人の気持ち」「家族の気持ち」を尊重する心に他なりません。不安を抱えて検査や治療に臨まれる患者さんやご家族に対し、私たちが提供できる最大の誠実さは、揺るぎない安全を守り抜き、「患者さんに寄り添う検査・治療」を高い精度で提供することだと確信しております。また、質の高いがん医療を支えるためには、「風通しの良い職場環境」が不可欠です。立場や経験年数に関わらず誰もが声を上げ、互いに尊重し高め合える組織を目指します。職員一人ひとりがプロフェッショナルとしての誇りとやりがいを持ち、安心して業務に邁進できる環境こそが、結果として患者さんへの温かな医療へとつながると信じております。微力ではございますが、地域医療に貢献し、皆さまから信頼される放射線部門の発展に全力を尽くす所存です。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

最良のがん医療を支える良質な臨床検査部門を目指して



臨床検査技師長

畠 伸策

このたび、4月1日付で臨床検査技師長として小倉医療センターより着任しました畠伸策と申します。どうぞよろしくお願いいたします。これまで小倉医療の他に、離島の対馬や奄美、鹿児島医療（鹿児島）、九州医療（福岡）、厚生労働省（東京）で全く機能の違う施設で勤務してまいりました。厚生労働省

医政局地域医療計画課では、医療行政の立場から医療法・臨床検査技師法の検体検査の精度確保はじめ、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に普及した感染症遺伝子検査やゲノム医療推進法成立により一層注目されるがん遺伝子検査、NIPTをはじめとする出生前診断など、高度専門化する検査領域の課題整理にも関わることができました。

当院の臨床検査部門は、2017年12月に公益財団法人日本適合性認定協会（JAB）の国際標準

規格「ISO15189（臨床検査室—品質と能力に関する特定要求事項）」に基づき認定された臨床検査室で、精度の高い良質な臨床検査（検体検査・生理機能検査・病理検査など）を行い、高度ながん医療に迅速に対応できる品質の高い検査データを診療部門に提供しています。今後も臨床検査技術部からできる臨床貢献と迅速でより精度の高い検査を提供してまいります。また医療の複雑化と医師の働き方改革が求められる中、新たな役割として臨床検査技師によるタスク・シフト/シェア推進も求められており、臨床貢献の一つとして何ができるかも考えてまいります。

当院理念の「病む人の気持ちを」そして「家族の気持ちを」尊重し温かく、思いやりのある最良のがん医療を実践できるよう、臨床の先生方を精一杯支えられる臨床検査部となるため日々自己研鑽を重ね、努力している検査科スタッフが十分に能力を発揮し、のびのびと安心して働ける職場環境の整備のため、微力ではありますが頑張っております。今後とも臨床検査技術部の運営にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



栄養管理室長

徳永 真矢

患者さんの気持ちに寄り添った「食」のサポートをめざして

この度、4月1日付で栄養管理室長として着任いたしました徳永真矢と申します。嬉野を最初に福岡、長崎、佐賀県内の6施設の国立病院機構に勤務し、今回初めて九州がんセンターで勤務いたしますことを大変嬉しく思うのと同時に、身の引き締まる思いです。

近年、めまぐるしく変化する医療現場において、管理栄養士は栄養の知識のみならず、医学・薬学的な知識に加えチーム医療においても多職種連携を図る上で、コミュニケーションスキルなどが必要となっています。管理栄養士は、主に献立作成などの給食管理業務と栄養食事指導・栄養ケアマネジメント・栄養サポートチーム（NST）などの栄養管理業務を行っていますが、食事提供と栄養上の配慮は連携し

て行う必要があります。「安心安全な食事」の提供をモットーに、患者個々の状態や治療方針に合わせた食事提供に取り組んでおりますが、がん治療時には、抗がん剤の副作用や手術の後遺症などで食事摂取量が減少し、栄養の摂取に悩む患者さんは少なくありません。治療中に食欲不振や悪心・嘔吐、味覚障害などの訴えが多く、栄養不良に陥らないためにも症状に合わせた最適な食事の提案や栄養食事指導を行い、栄養状態の維持・改善をサポートすることが重要です。

『病む人の気持ちを』そして『家族の気持ちを』尊重し、温かく、思いやりのある、最良のがん医療をめざします」という基本理念のもと、患者さん、ご家族の気持ちに寄り添い、患者さん・ご家族の声に耳を傾け、がん患者の「食」の安心と、治療後の効果を最大限に引き出すために、入院前から退院後の通院中も切れ目のない栄養サポートを提供できるよう栄養管理室一同精進してまいります。

皆様のご支援、ご指導のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



理学療法士長

村上 寿一

患者さん、ご家族の気持ちに寄り添いながら、安心・安全なリハビリテーションの提供を目指します

この度、4月1日付で熊本医療センターより着任致しました村上寿一と申します。出身は熊本県です。理学療法士としては長崎労災病院で勤務を開始し、国立病院機構での勤務は1996年に旧国立嬉野病院からスタートさせていただきました。これまでに約30年間で佐賀、熊本を行ったり

来たりし、福岡での勤務は初めての経験となります。これまでリハビリテーション医療は脳血管疾患や運動器疾患、呼吸器疾患などを中心に行われてきましたが、近年は「がん」治療の中でも重要な位置付けにあります。以前は術後の合併症に対してリハビリが始まるのが一般的でした。しかしながら現在は、1. 「がん」と診断された直後から障害の予防を目的とした「予防的リハ」、2. 「がん」に対しての治療が開始された時期から行われる「回復

期リハ」、3. 再発・転移時に行われる「維持期リハ」、4. 症状緩和が中心に行われる時期の「緩和期リハ」と病期別に目的や役割を担っています。

「がん」専門病院である九州がんセンターでは各病期の患者さんが多くおられると思いますので、その病期に応じた適切で安全なリハビリを病院の基本理念（『病む人の気持ち』そして『家族の気持ちを』尊重し、暖かく、思いやりのある、最良のがん医療をめざします）の元、実践できるよう取り組んでいきたいと思っております。

また「がん」のリハビリテーションにおいて「チーム医療」は不可欠なため、自部署だけではなく、各科の先生方や看護師の方をはじめ、他医療スタッフの方々とコミュニケーション、連携を図り、患者さんやご家族により良い医療を提供できるよう努めてまいります。

九州がんセンター、また地域活動に貢献できるよう努力し、なにごとにも一生懸命取り組んでまいりたいと思っております。皆様のご指導、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

九州がんセンターが米国 Newsweek 誌による
“世界最高の病院” のがん部門で

世界トップ病院に
6年連続で選ばれました！



当院が、米国週刊誌「Newsweek」による世界基準の優良な医療機関を評価したランキング「World's Best Specialized Hospitals」のがん部門において、世界の Top200 病院に6年連続(2021、2022、2023、2024、2025、2026)ランクインしました。このランキングは、世界の4万人以上の医師、病院経営者、医療専門家による調査を行い、名高い医療専門家達の国際委員会によって決められています。今後も皆様に最高の医療を提供できるよう職員一丸となって取り組んで参ります。

NEWSWEEK
掲載ページ

<https://www.newsweek.com/rankings/worlds-best-specialized-hospitals-2026>



外来担当医一覧表

休診 土・日・祝日
年末年始

受付
時間

午前 8:30 ~ 11:00

2026年5月1日より

| 外来 | 診療科 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | |
|----|----------------------------------|--|---|---------------------------------|---------------------------------|---|----------------|
| A | 頭頸科 | <休診日> | 藤 賢史* (初) 原/貝原 (再) | <休診日> | 益田 (初) 山内/綿貫 (再) | 山内 (初) 藤*/大森/川添 (再) | |
| | 小児・思春期腫瘍科 | 古賀 友紀*/野口/横山/東矢/下茂 (初・再) *初診は原則として診療科責任医師が対応いたします | | | | | |
| | 泌尿器・後腹膜腫瘍科 | 根岸 孝仁* (初・再) | 古林 (初・再) 根岸*/児島 (再) | 中村 (元) (初・再) | 根岸* (初・再) 古林/中野 (再) | 古林 (初・再) | |
| | 血液・細胞治療科 | 崔/宮下 (初・再) 樋口/榊 (再) | 宮下 (初・再) 崔/樋口 (再) | 宇都宮 (初・再) 末廣 陽子*/ 崔/榊 (再) | 崔 (初・再) 末廣*/宮下/樋口 宇都宮 (再) | 榊 (初・再) 崔/宮下/樋口 (再) | |
| | 糖尿病・代謝科 <small>院内紹介のみ</small> | 工藤 佳奈* (初・再) 池田 (再) | 工藤* (再) 池田 (初・再) | 工藤* (初・再) 池田 (再) | 工藤* (初・再) 池田 (再) | 工藤* (再) 池田 (初・再) | |
| B | 呼吸器腫瘍科 | 山口 正史*/島松/ 原武 (初・再) 米谷/橋之口 (再) | 瀬戸/豊澤/ 河端 (再) | 山口 (正)*/米谷 豊澤/原武 (初・再) | 豊澤/河端 (再) | 米谷/島松 (初・再) 原武/橋之口 (再) | |
| | 消化管・腫瘍内科 | 江崎 泰斗* (初・再) 有水 (再) | 江崎* (初) 薦田 (再) 是石 (再) | 江崎* (再) 薦田 (初) 有水 (再) | 薦田 (再) 是石 (再) 有水 (初) | 江崎* (再) 薦田 (再) 是石 (初) | |
| | 老年腫瘍科 <small>院内紹介のみ</small> | 西嶋 智洋* (第2,4週) (初) | 西嶋 (初) | 西嶋 (初) | 西嶋 (初) | 西嶋 (初) | |
| | 消化管外科 | 森田 勝/南原 (初・再) | 当番医 (初)/杉山 (初・再) | 当番医 (初)/岩永 (初・再) | 廣瀬 (初・再) | 木村 和恵* (初・再) | |
| | 消化器・肝胆膵内科 | 肝臓 | 田中 (再)/千住 (初) | 杉本 理恵* (初・再) 千住 (初・再) | 千住 (初・再) | 杉本 (初・再)* 黒川 (再) | 田中 (再)/黒川 (初) |
| | | 膵臓 | 久野 (再)/新名 (初・再) | 李 (初・再) | 久野 (再)/新名 (初・再) | 李 (初・再) | 久野 (初・再)/李 (再) |
| | NET 外来 | 李/薦田 (初・再) | 李/薦田 (初・再) | 李/薦田 (初・再) | 李/薦田 (初・再) | 李/薦田 (初・再) | |
| | 肝胆膵外科 | <休診日> | <休診日> | <休診日> | 杉町 圭史*/王 (初・再) | 杉町*(初)/栗原 (初・再) | |
| | 歯科口腔外科 <small>院内紹介のみ</small> | 福元 俊輔*/志渡澤 (初・再) | 福元*/志渡澤 (初・再) | 福元*/志渡澤 (初・再) | 福元*/志渡澤 (初・再) | 福元*/志渡澤 (初・再) | |
| | がん遺伝外来 | 織田 信弥 (初・再) | <休診日> | 織田 (初・再) | <休診日> | 織田 (初・再) | |
| | 消化管二次検診 | 消化管・内視鏡科 | 消化管・腫瘍内科 | 消化管・内視鏡科 | 消化管外科 | 消化管・内視鏡科 | |
| C | 腫瘍循環器科 <small>院内紹介のみ</small> | 河野 美穂子* (初・再) | 河野* (初・再) | 河野* (初・再) | 河野* (初・再) | 河野* (初・再) | |
| | 消化管・内視鏡科 | 村木 (初・再) | 宮坂/村木/笠井 (再) | 宮坂 光俊* (初・再) | 宮坂*/村木/笠井 (再) | 笠井 (初・再) | |
| J | 婦人科 | 島本/久富/岡留 (初・再) | <休診日> | 有吉 和也*/吉田/岡留 (初・再) | 島本/山口 (真)/長山 (初・再) | <休診日> | |
| | 乳腺科 | 徳永 えり子*/田尻/ 担当医 (初・再) 古閑/伊地知/ 秋吉/厚井 (再) | 徳永*/秋吉/ 担当医 (初・再) 古閑/伊地知/厚井/ 田尻/中村 (再) | 徳永*/古閑/ 担当医 (初・再) 中村 (再) | <休診日> | 伊地知/厚井/ 担当医 (初・再) 古閑/秋吉/ 田尻/中村 (再) | |
| | 形成外科 | <休診日> | 福島 淳一*/嶋本 (涼) (初・再) | <休診日> | 福島*/嶋本 (涼) (再) | <休診日> | |
| | 皮膚腫瘍科 | 内 博史* (初・再) | <休診日> | 内* (初・再) | <休診日> | 内* (初・再) | |
| | 整形外科/骨軟部腫瘍科 | 骨転移・がん骨粗鬆症外来 (初・再) | 福島/薛 宇孝* (初・再) | <休診日> | <休診日> | 薛*/福島 (初・再) | |
| | 緩和ケア外来 サイコオンコロジー科/緩和治療科 | 大島 (サイコオンコロジー科) (初・再) | 三浦 章子* (サイコオンコロジー科) (初・再) | 大谷 (緩和治療科) (初・再) | 三浦 嶋本 正弥* (初・再) | 嶋本 (正)* (初・再) | |
| E | 放射線治療 | 阿部 (初)/國武 直信* (再) | 上原 (初)/中島 (再) | 國武* (初)/上原 (再) | 中島 (初)/阿部 (再) | 交代制 (再) | |

* 各診療科責任者 ※初診:初 再診:再

院長：森田 勝

副院長 副院長 臨床研究
益田 宗幸 中村 元信 センター長
江崎 泰斗

統括診療部長：杉本 理恵

* 各診療科責任者

| | | |
|------------------|------------------|---------------|
| 消化管・腫瘍内科：江崎 泰斗 | 形成外科：福島 淳一 | 腫瘍循環器科：河野美穂子 |
| 緩和治療科：嶋本 正弥 | 呼吸器腫瘍科：山口 正史 | 歯科口腔外科：福元 俊輔 |
| サイコオンコロジー科：三浦 章子 | 小児・思春期腫瘍科：古賀 友紀 | 放射線治療科：國武 直信 |
| 消化器・肝胆膵内科：杉本 理恵 | 乳腺科：徳永えり子 | 皮膚腫瘍科：内 博史 |
| 消化管外科：木村 和恵 | 婦人科：有吉 和也 | 老年腫瘍科：西嶋 智洋 |
| 肝胆膵外科：杉町 圭史 | 泌尿器・後腹膜腫瘍科：根岸 孝仁 | 糖尿病・代謝科：工藤 佳奈 |
| 消化管・内視鏡科：宮坂 光俊 | 血液・細胞治療科：末廣 陽子 | |
| 頭頸科：藤 賢史 | 整形外科：薛 宇孝 | |

※ 初めて診察を受けられる方は、現在受診しておられる病院や医院（かかりつけ医）からの紹介状（診療情報提供書）をお持ちください。また、「がん検診（一次検診）等で精密検査が必要とされた方も、検診機関や保健所などからの紹介状（精密検査依頼書）をお持ちください。

※ 当院では「がんの一次検診」は行っておりません。がんの一次検診を希望される方はがん（一次）検診施設を受診してください。

- 2024/7/1 より、初診患者受付を原則すべての診療科で予約制とさせていただきます。
初めて診察を受けられる場合、患者さんから直接のご予約はできませんので、医療機関を通してご予約いただきますようお願いいたします。
- 【院外からの紹介不可、院内紹介に限る】老年腫瘍科、歯科口腔外科、腫瘍循環器科、糖尿病・代謝科
- 放射線治療科への紹介は、直接、放射線治療医が対応します。代表 092-541-3231 に連絡し、予約希望とお伝えください。
- 緩和ケア外来（サイコオンコロジー科/緩和治療科）への紹介は、直接、担当医が対応します。
現在おかけの医療機関から 092-541-3231（代表番号）にご連絡いただき、予約希望とお伝えください。



独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター

〒811-1395 福岡市南区野多目3丁目1-1
TEL：(代表①) 092-541-3231 (代表②) 092-557-6100
FAX：092-551-4585
URL：https://kyushu-cc.hosp.go.jp/

地域医療連携室

TEL：092-542-8532
FAX：092-541-3390